

II 各教科の正答率、問題の内容及び所見・解説

2 社会

(1) 正答率

問題	配点	正答		一部正答		誤答		無答		通過率 率= $\frac{\text{得点計}}{\text{人数} \times \text{配点}}$ (%)	
		数	率 (%)	数	率 (%)	数	率 (%)	数	率 (%)		
1	問1	3	421	92.5	11	2.4	20	4.4	3	0.7	93.7
	問2	2	404	88.8	0	0.0	51	11.2	0	0.0	88.8
	問3	2	362	79.6	1	0.2	75	16.5	17	3.7	79.7
	問4	5	253	55.6	136	29.9	42	9.2	24	5.3	72.0
	問5	3	193	42.4	50	11.0	212	46.6	0	0.0	47.6
2	問1	3	326	71.6	0	0.0	92	20.2	37	8.1	71.6
	問2	2	273	60.0	0	0.0	182	40.0	0	0.0	60.0
	問3	2	282	62.0	0	0.0	173	38.0	0	0.0	62.0
	問4(1)	5	186	40.9	157	34.5	64	14.1	48	10.5	58.2
	問4(2)	3	193	42.4	51	11.2	210	46.2	1	0.2	48.4
3	問1	2	198	43.5	0	0.0	257	56.5	0	0.0	43.5
	問2	2	257	56.5	0	0.0	198	43.5	0	0.0	56.5
	問3(1)	3	253	55.6	2	0.4	150	33.0	50	11.0	55.9
	問3(2)	2	243	53.4	0	0.0	210	46.2	2	0.4	53.4
	問4	2	211	46.4	0	0.0	244	53.6	0	0.0	46.4
	問5	5	67	14.7	156	34.3	143	31.4	89	19.6	32.0
4	問1	3	76	16.7	1	0.2	378	83.1	0	0.0	16.8
	問2	2	379	83.3	0	0.0	75	16.5	1	0.2	83.3
	問3	5	28	6.2	141	31.0	169	37.1	117	25.7	21.3
	問4	2	179	39.3	0	0.0	276	60.7	0	0.0	39.3
	問5	3	337	74.1	1	0.2	98	21.5	19	4.2	74.2
5	問1	3	187	41.1	0	0.0	267	58.7	1	0.2	41.1
	問2A	2	241	53.0	1	0.2	175	38.5	38	8.4	53.1
	問2B	2	245	53.8	1	0.2	167	36.7	42	9.2	54.0
	問3	4	201	44.2	106	23.3	93	20.4	55	12.1	56.4
	問4	3	293	64.4	0	0.0	103	22.6	59	13.0	64.4
	問5	4	158	34.7	50	11.0	167	36.7	80	17.6	40.7
	問6	3	234	51.4	0	0.0	218	47.9	3	0.7	51.4
	問7	3	367	80.7	0	0.0	80	17.6	8	1.8	80.7
6	問1	3	301	66.2	4	0.9	97	21.3	53	11.6	66.7
	問2	5	167	36.7	230	50.5	18	4.0	40	8.8	64.6
	問3(1)	2	228	50.1	0	0.0	219	48.1	8	1.8	50.1
	問3(2)	3	195	42.9	0	0.0	251	55.2	9	2.0	30.5
	問4	2	311	68.4	0	0.0	104	22.9	40	8.8	68.4

(小数第2位を四捨五入しているため、%の合計が100にならない場合がある。)

(2) 問題の内容

- 1 世界地図に示した4か国について調べる学習の場面を想定した、地理的分野の問題である。
- 問1 三大洋のうち、インドネシアが面している海洋の名称を2つ書く問題である。
- 問2 緯度と経度についてのまとめを読み、まとめの中の2つの空欄にあてはまる語の組み合わせを選ぶ問題である。
- 問3 アフリカ大陸の鉱産資源についてのまとめを読み、まとめの中の空欄にあてはまる語を書く問題である。
- 問4 冷帯(亜寒帯)と寒帯の気温と降水量を示したグラフと、冷帯(亜寒帯)と寒帯の景観写真を読み取り、冷帯(亜寒帯)と寒帯の樹木の生育の違いについて記述する問題である。
- 問5 ナイジェリア、ロシア、インドネシア、アメリカ合衆国の、2013年における人口、面積、発電量、石炭産出量、石油産出量、二酸化炭素排出量を示した表を読み取り、読み取れる内容を述べた文として正しいものをすべて選ぶ問題である。

- 2 日本のある地域の自然環境や産業について調べる学習の場面を想定した、地理的分野の問題である。
- 問1 地図に模式的に示した3つの山脈と、日本アルプスについてのまとめを読み、地図とまとめの中の空欄にあてはまる山脈を書く問題である。
- 問2 富山市、松本市、名古屋市のいずれかの都市にあたる気温と降水量を示した3つのグラフを読み取り、グラフと都市の組み合わせを選ぶ問題である。
- 問3 1960年と2014年の愛知県の製造業についてのグラフを読み取り、読み取れる内容を述べた文として正しいものを選ぶ問題である。
- 問4 (1) 丸亀市の一部を示した地形図等を見て、丸亀市で、ため池を利用した農業が行われてきた理由を、瀬戸内の気候の特色にふれながら、地形図から読み取れる土地利用に着目して記述する問題である。
- (2) 丸亀市の一部を示した2万5千分の1の地形図を読み取り、読み取れる内容を述べた文として下線部が正しいものをすべて選ぶ問題である。
- 3 自分が興味のある人物について調べる学習の場面を想定した、歴史的分野の問題である。
- 問1 中大兄皇子について述べた文として正しいものを選ぶ問題である。
- 問2 平安時代の文化について述べた文と、平安時代の代表的な文化財の組み合わせを選ぶ問題である。
- 問3 (1) 北条泰時についてのまとめを読み、まとめの中の空欄にあてはまる法律を書く問題である。
- (2) 鎌倉時代と同時期の世界のできごとを述べた文として、その正誤の組み合わせが正しいものを選ぶ問題である。
- 問4 南北朝の動乱についてのまとめを読み、まとめの中の空欄にあてはまる後醍醐天皇のがれた地と地図中の位置の組み合わせを選ぶ問題である。
- 問5 江戸幕府の外国船への対応の方針がどのように変わったかについて、1825年に幕府が出した法令と、1842年に幕府の出した法令の要約を読み、方針が変わる原因となった海外のできごとにふれながら記述する問題である。
- 4 近現代の年表を基にした、歴史的分野の問題である。
- 問1 自由民権運動の広がりから帝国議会の開設に至るできごとについて述べた文を、年代の古い順に並べかえる問題である。
- 問2 第一次世界大戦後のインドの民族運動についてのまとめを読み、まとめの中の空欄にあてはまるインドを植民地としていた国と、インドの民族運動の指導者の組み合わせを選ぶ問題である。
- 問3 原敬内閣成立時の衆議院議員の所属政党別割合を示したグラフと、原敬内閣成立時の大臣の所属政党などをまとめた表を読み取り、グラフと表の中の空欄にあてはまる政党名を用いて、本格的な政党内閣といわれる原敬内閣の特色を記述する問題である。
- 問4 原敬内閣の成立から第二次世界大戦の始まりまでの、日本の政治や社会の様子について述べた文として正しいものを選ぶ問題である。
- 問5 1950年代中ごろから20年近くにわたって発展した日本経済の様子についてのまとめを読み、まとめの中の空欄にあてはまる語を書く問題である。
- 5 テーマを設定して調べる学習の場面を想定した、公民的分野の問題である。
- 問1 『人権保障と「公共の福祉」による人権の制限の例』についての表の空欄にあてはまる人権の組み合わせを選ぶ問題である。
- 問2 衆議院議員選挙についてのまとめを読み、まとめの中の空欄にあてはまる選挙制度を書く問題である。
- 問3 法律案の議決について、衆議院で可決後、参議院で否決された法律案が、法律として成立するのはどのような条件で再可決したときかを、「出席議員」という語を用いて記述する問題である。
- 問4 地方議会についてのまとめを読み、まとめの中の空欄にあてはまる語を書く問題である。
- 問5 国の一般会計における歳出と税収を示したグラフを読み取り、政府が国債を発行する目的を「歳出」と「税収」という2つの語を用いて記述する問題である。
- 問6 消費者を守る制度について述べた文として、その正誤の組み合わせが正しいものを選ぶ問題である。
- 問7 2015年と2016年の国際連合における国連予算の分担率の上位10か国を示した表の空欄にあてはまる安全保障理事会の常任理事国を書く問題である。

6 歴史的分野で学習した「船」について調べる学習の場面を想定した、地理的分野・歴史的分野・公民的分野についての総合的な問題である。

問1 遣唐使船についての資料および遣唐使に関する人物についての文章を読み、文章中の空欄にあてはまる人物の名前を書く問題である。

問2 1980年と2014年のタイの輸出総額と輸出品の総額に占める割合(上位5品目)を示したグラフを読み取り、タイの輸出がどのように変化したのかを記述する問題である。

問3 (1) 東京からの距離と方位が正しくあらわされた地図を活用して、東京とノーフォークの最短ルートを選ぶ問題である。

(2) アメリカの大統領が関係するできごとについて述べた文を、年代の古い順に並べかえる問題である。

問4 トルコの世界遺産についてのまとめを読み、世界遺産の登録や保護を行っている国際連合の専門機関の名称を書く問題である。

(3) 所見・解説

1 世界地図に示した4か国について調べる学習の場面を想定し、世界の地域構成や地域的特色について理解しているかをみようとした。

問1 地図をみると、インドネシアは多くの島々で構成される国で、面している海洋は「インド洋」と「太平洋」となる。

問2 緯度と経度の基準となる線は「赤道」と「本初子午線」であるため、正答はアとなる。緯度・経度を用いて地球上の位置を示す学習を心掛けたい。

問3 まとめにある「埋蔵量が非常に少ない金属」や「量はあっても経済的・技術的に取り出すのが難しい金属」、「高度な技術を使った製品の生産に欠かせない金属」、「不要になった家電製品から回収して再利用」という表現から、空欄にあてはまる語は「レアメタル(希少金属)」となる。

問4 冷帯(亜寒帯)と寒帯の景観写真から、樹木の生育を読み取ると、冷帯(亜寒帯)では樹木が育っているが、寒帯では樹木が育っていないことが分かる。また、気温と降水量を示したグラフから、冷帯(亜寒帯)と寒帯の気温を比べると、冷帯(亜寒帯)では夏の気温が上がるのに対し、寒帯で夏の気温が上がらないことが読み取れる。正答に至らなかったものには、気温についての記述が不十分であったものや、気温と樹木の生育との関連を記述できていないものがみられた。

問5 表から読み取れる内容を述べた文として正しいものは、ウ、オとなる。誤答はアを選択したものや、オを選択していないものが多かった。人口密度は「人口÷面積」で求められ、それぞれナイジェリアが約189(人/km²)、インドネシアが約131(人/km²)となり、アは誤っていると判断できる。オは「火力÷発電量」で求められ、それぞれナイジェリアが約81%、ロシアが約66%、インドネシアが約88%、アメリカ合衆国が約69%となり、オは正しいと判断できる。統計資料を読み取る際は、計算して数値を求める習慣もつけておきたい。

2 日本のある地域の自然環境や産業について調べる学習の場面を想定し、日本の諸地域や地域的特色、身近な地域の調査について理解しているかをみようとした。

問1 地図とまとめの文章を読み取ることにより、空欄にあてはまる山脈は「赤石山脈」となる。

問2 日本の気候区分において、富山市は日本海側の気候、松本市は中央高地の気候(内陸の気候)、名古屋市は太平洋側の気候にそれぞれ属している。日本海側の気候の特色は冬の降水量が多いことであり、中央高地の気候(内陸の気候)の特色は、年間をとおして気温が低く、降水量が少ないことであり、太平洋側の気候の特色は、夏の降水量が多いことである。そのため、正答はオとなる。

問3 資料から読み取れる内容を述べた文として正しいものはエとなる。誤答はイを選択しているものが多かった。イは、製造業事業所数に占めるせんの事業所数の割合についての記述であるため、内容の正誤を判断するためには、計算をすることが必要である。製造業事業所数に占めるせんの事業所数の割合を計算すると、1960年の割合は約38%であり、2014年の割合は約7%であるため、イの内容は誤っていると判断できる。

問4 (1) 日本の気候区分における瀬戸内の気候の特色は、降水量が少ないことである。そのため、瀬戸内地方など雨の少ない地域では、昔からため池を利用した農業が行われてきた。また、農業に関する土地利用について、地形図からは「田」の地図記号を多く読み取ることができる。正答に至

らなかつたものには、おもな土地利用に着目した記述が不十分であるものや、瀬戸内の気候の特色を「降水量が多い」と誤って理解しているものがみられた。

- (2) Aは近くにある青山の三角点の数値と計曲線が50mごとであることから標高100m、Bは周辺に100mの計曲線があることから、なぞると標高150mとなるため、**ア**は正しい。Cにみられる地図記号は消防署ではなく交番であるため、**イ**は誤っていると判断できる。縮尺が2万5千分の1の地形図であることから $6\text{ cm} \times 25,000 = 150,000\text{ cm} = 1,500\text{ m}$ となるため、**ウ**は正しい。Fの近くにある三角点の数値や、G地点の近くにある標高点の数値、また等高線や、FからGを越えて土器川をなぞった地形図の右下にある三角点の数値から、土器川はG地点からF地点に向かって流れていると判断できるため、**エ**は誤っている。地形図では上が北となっているため、Hからみて右下にあるIはおおよそ南東の方向にあり、**オ**は誤っていると判断できる。したがって、正答は**ア**、**ウ**となる。

3 自分が興味のある人物について調べる学習の場面を想定し、世界の歴史を背景とした近世までの日本の歴史について理解しているかをみようとした。

問1 中大兄皇子について述べた文は**イ**である。なお、**ア**は推古天皇、**ウ**は天武天皇、**エ**は聖武天皇について述べた文である。誤答の中で最も多かったのは**ウ**であった。

問2 平安時代の文化について述べた文は**b**であり、平安時代の代表的な文化財は資料1の「平等院鳳凰堂の阿弥陀如来像」であるため、正答は**ウ**となる。なお、**a**は奈良時代の天平文化について述べた文であり、資料2の「唐招提寺の鑑真像」は天平文化の代表的な文化財である。誤答の多くは**エ**を選択したものであった。

問3 (1) 武士の社会で行われていた慣習に基づいて、北条泰時が定めたものは「御成敗式目」である。

(2) Xは15世紀末のヨーロッパ人のアジア進出について述べた文であり、日本では室町時代にあたる。Yはモンゴル帝国の拡大について述べた文であり、日本では鎌倉時代にあたる。Zはイギリスの革命について述べた文であり、日本では江戸時代にあたる。よって、正答は**ア**となる。誤答の多くは**エ**を選択したものであった。

問4 後醍醐天皇がのがれたのは「吉野」である。また、地図中の吉野の位置は**c**であるため、正答は**カ**となる。誤答の多くは**イ**を選択したものであった。

問5 江戸幕府の外国船への対応の方針が変わる原因となった海外のできごとは「アヘン戦争」である。アヘン戦争で清がイギリスに負けたことを知ると、江戸幕府は、外国船を打ち払うことをやめ、まきや水を与えることとした。正答に至らなかつたものには、「アヘン戦争」についての記述がないものが多くみられた。

4 近現代の日本と世界の歴史について理解しているかをみようとした。

問1 正答は**ウ**→**イ**→**ア**→**エ**となる。選択肢の内容を読み取ることで、年号を暗記していなくても正答を導くことができる。**ウ**の国会期成同盟の結成は、西南戦争後に自由民権運動が広まった時期のものである。**イ**の立憲改進黨の結成は、国会開設の勅諭が出された時期であり、**ウ**より後である。**ア**の大日本帝国憲法の発布は、帝国議会が開設される前であり、大日本帝国憲法が発布されたのちに、**エ**の第1回帝国議会が開かれている。誤答の多くは、大日本帝国憲法の発布と第1回帝国議会が開かれた順を理解していないものであった。1877年～1894年の短い期間であるが、自由民権運動の高まりから立憲国家の成立までの歴史の流れについてしっかり理解する必要がある。

問2 イギリスの植民地支配に対して、非暴力・不服従を唱え、完全な自治を求める運動を指導したのはガンディーであるため、正答は**イ**となる。誤答の多くは**ウ**を選択したものであった。

問3 グラフと表の中の空欄にあてはまる政党は「立憲政友会」である。また、グラフと表から読み取れる、本格的な政党内閣といわれる原敬内閣の特色は、「立憲政友会が衆議院第一党であること」、「立憲政友会の党員が大臣の多くを占めていること」である。正答に至らなかつたものには、政党名として「立憲政友会」を用いてないものや、グラフから読み取れる原敬内閣の特色である「衆議院の第一党」についての記述がないものがみられた。

問4 1918年の原敬内閣の成立から1939年の第二次世界大戦の始まりまでの政治や社会の様子について述べた文は**エ**である。誤答の多くは、**イ**や**ウ**を選択しているものであった。**イ**と**ウ**は明治初期のできごとである。

問5 まとめの文章を読み取ることにより、空欄にあてはまる語は「高度経済成長」となる。誤答の多くは、「バブル経済」であった。

5 公民的分野の学習のまとめとして、興味のある分野からテーマを設定して調べる学習の場面を想定し、日本の政治や経済、国際社会について理解しているかをみようとした。

問1 正答はウである。誤答はアを選択したものが多かった。表に示された「公共の福祉」による人権制限の例から、選択肢にある「財産権の保障」、「表現の自由」、「居住・移転の自由」が、それぞれの空欄にあてはまるのかを考察することで、正答に至ることができる。

問2 正答は、Aが小選挙区（制）、Bが比例代表（制）である。誤答としては、AとBにあてはまる語が逆になっているものが多かった。また、その他の誤答には、「普通」、「秘密」、「直接」、「平等」など選挙の原則についてのものがみられた。

問3 法律案の議決について、衆議院と参議院が異なった議決をした場合、衆議院の優越により、衆議院で出席議員の3分の2以上の多数で再可決すると法律として成立する。正答に至らなかったものには、「出席議員」を使った表現ができていないものや、「3分の2」を「過半数」にしていたものがみられた。

問4 まとめにある「地方公共団体独自の法」や「地方公共団体が法律の範囲内で自由に制定」という表現から、正答は「条例」となる。

問5 政府が国債を発行する目的は、歳出に必要な収入を税収でまかなえない場合、税収の不足分を補うためというものである。国の一般会計における歳出と税収を示したグラフからは、歳出を税収でまかなえていないことが分かる。正答に至らなかったものには、グラフを読み取っていないものや、「税収の不足を補うため」という記述がないものがみられた。

問6 正答は、ウである。消費者問題に取り組む官庁として設置されたのは、公正取引委員会ではなく「消費者庁」であるため、Xは誤っていると判断できる。また、欠陥商品によって消費者が被害を受けたときの企業の責任について定めた法律は、消費者契約法ではなく「製造物責任法」であるため、Yは誤っていると判断できる。誤答の多くはイを選択したものであった。

問7 表の空欄にあてはまる国際連合の常任理事国は「中華人民共和国」となる。

6 歴史的分野で学習した船に関連する事項について調べる学習の場面を想定し、地理的分野・歴史的分野・公民的分野の3分野を総合的に理解しているかをみようとした。

問1 天台宗を伝え、比叡山に延暦寺を建てた人物は「最澄」である。

問2 1980年と2014年のタイの輸出の変化について、輸出総額に着目すると輸出総額は大幅に増えていることが分かる。また、グラフの輸出品目から、1980年のおもな輸出品は農産物や原料であり、2014年のおもな輸出品は工業製品であることが読み取れる。

問3 (1) 東京からの距離と方位が正しくあらわされた地図1において、東京とノーフォークの最短ルートは、東京とノーフォークを結んだ直線である。この直線がどこを通っているかを地図2にあてはめて考察すると、正答はアとなる。誤答の多くはイとウであった。地図は目的に合わせてさまざまな種類があり、目的に合わせた地図を適切に活用できる技能を身に付けたい。

(2) 正答はエ→イ→ウ→アとなる。選択肢の内容を読み取ることで、歴代大統領を暗記していなくても正答を導くことができる。エのウィルソン大統領の文は、国際連盟の発足について述べているため、第一次世界大戦後の国際協調の時代のものである。イのルーズベルト大統領の文は、世界恐慌に対する政策について述べているため、エより後の時期のものである。ウのケネディ大統領の文は、キューバ危機について述べていることから、第二次世界大戦後の冷戦の時期のものであり、イよりも後の時期である。アのブッシュ大統領の文は冷戦の終結について述べていることから、ウより後の時期となる。

問4 世界遺産の登録や保護を行っている国際連合の専門機関は、「ユネスコ」である。